

**JENESYS2016 招へいプログラムの記録**  
**対象国：ASEAN 10 か国、東ティモール及びインド**  
**テーマ：平和構築交流 1 陣**

**1. プログラム概要**

ASEAN10 か国、東ティモール及びインドより国際関係及び平和構築に関心を有する大学生 120 名が、11 月 8 日～11 月 15 日の 8 泊 9 日の日程で来日し、平和構築をテーマとしたプログラムに参加しました。一行は、プログラムを通じて幅広く日本を理解する機会を持ち、各々の関心事項や体験について SNS を通じて対外発信を行いました。また、帰国前の報告会では訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）についてグループ毎に発表しました。

**【参加国・人数】** 120 名（インド 10 名、インドネシア 10 名、カンボジア 10 名、シンガポール 10 名、タイ 10 名、東ティモール 10 名、フィリピン 10 名、ブルネイ 10 名、ベトナム 10 名、マレーシア 10 名、ミャンマー 10 名、ラオス 10 名 ※50 音順）

**【訪問地】** 東京都（全員）、広島県（72 名）、長崎県（48 名）

**2. 日程**

11 月 6 日（日）、7 日（月）、8 日（火）

成田国際空港又は羽田空港より入国、【オリエンテーション】

11 月 9 日（水）【日本理解講義/基調講演】 17 世紀以降の日本の発展について

【歴史的建造物等視察】江戸東京博物館、浅草寺

11 月 10 日（木）～13 日（日）

グループごとに分かれ、各地方へ移動

（1）グループ A/B/C: 広島県

【歴史的建造物視察】原爆ドーム、平和記念公園、広島平和記念資料館、被爆体験、講話、【地方自治体表敬訪問】広島市、熊野町、【歴史的建造物視察】宮島・厳島神社、

【学校交流】県立広島大学（グループ A）、安田女子大学（グループ B）、広島工業大学（グループ C）、【文化体験】書道体験、杓子づくり体験、【ホームステイ】、【ワークショップ】

（2）グループ D/E: 長崎県

【地方自治体表敬】大村市、【歴史的建造物視察】長崎原爆資料館、被爆体験講話、

【学校交流】長崎大学、【地域産業視察】おおむら夢ファーム・シュシュ、【文化体験】大村寿司作り、折り紙、茶道、【ホームステイ】、【ワークショップ】

11 月 14 日（月）東京へ移動、【報告会】

11 月 14 日（月）/15 日（火）成田国際空港又は羽田空港より出国

**3. プログラム記録写真**

共通プログラム（東京都）

	
<p>11/9【日本理解講義/基調講演】</p>	<p>11/9【視察】江戸東京博物館</p>
<p>【Lecture on Japanese Culture/Key Note Lecture】</p>	<p>【Observation of Historical Landmark and Cultural Experience】Edo-Tokyo Museum</p>

グループ A/B/C: 広島県

	
<p>11/10【地方自治体表敬】広島市</p>	<p>11/10【歴史的建造物視察】原爆ドーム</p>
<p>【Courtesy Call】Hiroshima City Hall</p>	<p>【Observation of Historical Landmark】Atomic Bomb Dome</p>
	
<p>11/11【学校交流】広島工業大学</p>	<p>11/12【ホームステイ】広島市</p>
<p>【School Exchange】Hiroshima Institute of Technology</p>	<p>【Homestay】Hiroshima City</p>



11/13 【歴史的建造物視察】 錦帯橋  
 【Observation of Historical Landmark】  
 Kintaikyo-Bridge

グループD/E:長崎県



11/13 【ワークショップ】  
 【Workshop】



11/10 【地方自治体表敬】 大村市  
 【Courtesy Call】 Omura City



11/11 【文化体験】 折り紙  
 【Cultural Experience】 Origami art



11/11 【文化体験】 茶道  
 【Cultural Experience】 Tea Ceremony



11/12 【学校交流】 長崎大学  
 【School Exchange】 Nagasaki University

	
11/13【ホームステイ歓送会】大村市	11月13日【ホームステイ】大村市
【Farewell Party with Host Family】	【Farewell Party with Host Family】
Omura City	Omura City

#### 4. 参加者の感想（抜粋）

##### ◆ シンガポール 学生

広島原爆被害者の記憶の中に刻み込まれた苦しみと痛みを知って、とても心が揺さぶられました。そして世界平和と核兵器廃絶に向けて活動を行っていらっしゃる原爆被害者の方々の勇氣に感服しました。帰国後、シンガポールの人々に、核兵器がいかに悲惨なものかを伝えるため、今回私が感じた事を話し、そして特に広島の復興が示している様に、惨事の中で見えた希望について伝えたいと思います。

##### ◆ インドネシア 学生

日本理解講義は素晴らしく、日本の歴史と文化について多くを学ぶことができました。来日前は、日本は清潔で、日本人は時間を厳守するということは知っていましたが、日本がどのような国で、どのように今の状態に至ったかについては知りませんでした。講義を聞いて、日本人が政府を信頼し、近代への変革を求めたことが、急速な近代化に成功した鍵だったのだと感じました。また、被爆者の体験談を聞き、協調と平和の大切さを感じました。互いに攻撃しあえば、そこに苦しみと犠牲者が生まれるのです。平和の推進は、人間としてのより良い生活を確立するために非常に重要だと感じました。

##### ◆ ミャンマー 学生

ホームステイはプログラムの中で最高の経験でした。言葉の壁があり、限られた時間ではありましたが、ホストファミリーと絆を深めることができました。ホストファミリーの姿を通して、日本人について多くを学びました。日本人は親切で思いやりがあり、勤勉で家族思いであり、とても礼儀正しいです。もう一つ私が気がついたのは、日本人は外見はソフトに見えるけれど内面はとても強いのだということです。「強くあろう」という人生に対する愛と姿勢に圧倒されました。

##### ◆ マレーシア 学生

日本文化に関する講義で、日本のマレー半島占領の背後にあった理由を学びました。そして、日

本人は実は平和な生活を目指して努力しているのだと本当に理解することができました。それは文官政府の勧告に反した軍部の決定だったのです。また、講義を通じて私はどのように日本人が伝統的文化と最先端技術を生活の中に溶け込ませているのかも学びました。近代化と共に導入された様々な科学技術は毎日の生活の中で日本の文化と共存しています。

## 5. 受入れ側の感想

### ◆ 学校交流先

平和構築交流というテーマに基づく受け入れは今回が初めてでしたが、同世代のアジアの学生との文化交流を通じて平和構築への意見を交換することは、本学の学生にとってとても貴重な経験となりました。本学の学生との交流を通じて、訪日団の方々の平和に対する思いが少しでも深まり、その思いを母国で広めてもらえることを願っています。

### ◆ シンガポール・インドネシア ホストファミリー

二人とも明るく素直で笑顔が素敵な子たちでした。植物公園見学、広島美術館の特別展、広島交響団のミストレス（バイオリニスト）2名と主席チェリストによるコンサートを楽しみました。また振袖を着せてあげたところ、大喜びでした。

### ◆ 学校交流先 学生

私はカンボジアの21歳の学生と交流しました。今まで東南アジアの人と英語で話した機会がなく、独特のなまりのため、理解することが難しいことがありました。色々な英語に慣れていくことが必要だと再認識しました。長崎の平和の日について説明したところ、カンボジアでも長崎に原子爆弾が投下されたことを教わると教えてくれました。長崎市民として世界中の人々に長崎と広島での惨劇と平和の大切さを伝えるため、英語と戦争についてこれからも学んでいきたいと思います。

## 6. 参加者の対外発信

	
<p>・宮島についての発信 (Facebook) 宮島の厳島神社を訪問。広島県にあり船で行く。多くの友人と乗船体験を楽しんだ。この神社は世界遺産である。</p>	<p>・長崎原爆資料館 戦争が我々に残したもの</p>
<p>Today, I visited the Miyajima island, Itsukushima Shinto shrine. It is in Hiroshima Prefecture. After reaching Hiroshima, I went there by ship so I had a great experience on my many friends. The shrine is UNESCO World Heritage Site.</p>	<p>Nagasaki Atomic Bomb Museum This is what the war left for us.</p>

## 7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

<p><b>5 Pillars Approach</b></p> <p>Values: Green Practices, Sharing of values</p> <p>Culture: Balance of traditional and modern</p> <p>Social: "Open Houses" in communities</p> <p>Economy: Social Entrepreneurship</p> <p>Knowledge: Knowledge Mobilisation • Roadshows + University Events • Infographics • Social Media</p> <p>Learn   Re-learn   Unlearn</p> <p><b>Time frame</b> 2 – 6 months from reaching home</p> <p><b>Target groups</b> Main focus: Youth</p>	<p><b>Dissemination of Information</b></p> <p>SNS</p> <p>↓</p> <p>LOCAL Project</p> <p>↓</p> <p>Linkages</p>
<p>Aグループ：</p> <p>価値観- 日本で学んだグリーンカーテン、リサイクル等の環境対策</p> <p>文化- 日本の様な伝統的文化と近代化の融合</p> <p>社会- 異文化の人との交流</p> <p>経済- 様々な社会問題をビジネスを通して解決する</p> <p>知識- 様々な形で日本で学んだことを発信する</p> <p>帰国後2カ月から6カ月以内に、若者をターゲットに発信する。</p>	<p>Cグループ：情報を発信する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ FACEBOOK など SNS を使って発信する。</li> <li>・ 地元でプロジェクトを実施して地元の人に経験を伝える。</li> <li>・ お互いの連携やつながりを構築する。</li> </ul>
<p>Group A:</p> <p>Values – Green Practices, Sharing of values</p> <p>Culture – Balance of traditional + modern</p> <p>Social – “Open Houses”</p> <p>Economy – Social Entrepreneurship</p> <p>Knowledge – Knowledge Mobilisation Roadshows + University Events Infographics Social Media</p> <p>Within 2-6 month of return home, disseminate to mainly young people.</p>	<p>Group C:</p> <p>Dissemination of information</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ By using SNS like Facebook</li> <li>・ Start the projects at home and tell experiences to local people.</li> </ul> <p>Build up linkages with delegations</p>